
編集後記

学生さんと若い研究者の方々に、“高い山に登らねば、本当に登るべき山（価値）は見つからない”という言葉を送りたいと思います。英語では、The summit you should genuinely challenge will only appear after reaching the highest ones. でしょうか。

学問の山に登るには様々な力が必要です。この能力は、「課題解決能力」と言われます。この能力を身に付け、努力して道なき道を進み、課題解決をして山の頂に立って下さい。そのすがすがしい感動を味わって下さい。

さらにその頂から遥か遠くに別の山々が見えるでしょう。それらの山々は、地上からは見えない、高い山に登ったからこそ発見できたものです。それらの中には、非常に価値のある課題、誰もまだ見つけていない課題があるかもしれません。それら中のいずれの山に登るかを決めるのが「価値創造力」です。学問分野で言えば「課題発見能力」です。そこで役立つのが教養科目だと思います。

ほかの人の作った道に登る方が楽に決まっています。しかし、自分で苦労してでも、誰も登っていない山を見つけ、そこに登れば、その頂に立った時の感動は、より一層大きく、格別のものと思います。褒めて育てる米国流や、後進国から米国へ留学するハングリー精神は、そうした気概の醸成になっているのかもしれません。

日本における現状の4年生大学での教育システムは、記

憶優先の1.5年間の専門教育とその後の卒業研究・修士論文が中心になっていますが、この教育システムは、確かに中規模の山に登る技術はあるでしょうし、実際ありました。そのために戦後日本の奇跡的な復興が成し遂げられました。しかし、そうした技術で登攀できる山は、世界的に見ても、ひょっとしたら登り尽くされたのかもしれない。最近の経済状況を見ていると、もっと高い山・秘境の山を見つけて登る必要がありそうです。そのための登攀技術（広く深い専門知識）である「課題解決能力」と「価値創造力」と気概を、皆さんが身に付ける時代が来たのではないかと、思います。急ぐことはありません、後戻りもできます、しかし、徐々にゆっくり前に進んで行って頂けばよいと思います。

学生さんと若い研究者の方々には、是非とも価値ある大学生活や研究者生活を送られ、それら課題解決能力と価値創造力と気概を一生の宝として身に付け、ご自身の人生の価値も見出し、豊かな人生に繋げられることを期待しています。

金井 浩

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻

／医工学研究科医工学専攻

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第41巻 第5号（通巻第283号）

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

——禁転載——

本体価格 2,000円＋税（本誌購読料は会費に含まれます。）

平成26年9月15日発行

編集者 一般社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 一般社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社